



佐渡市の紹介

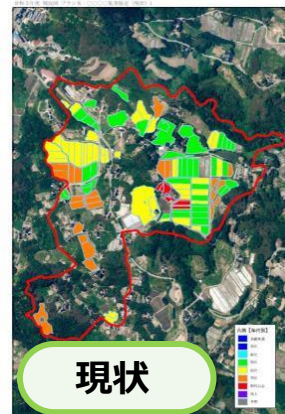
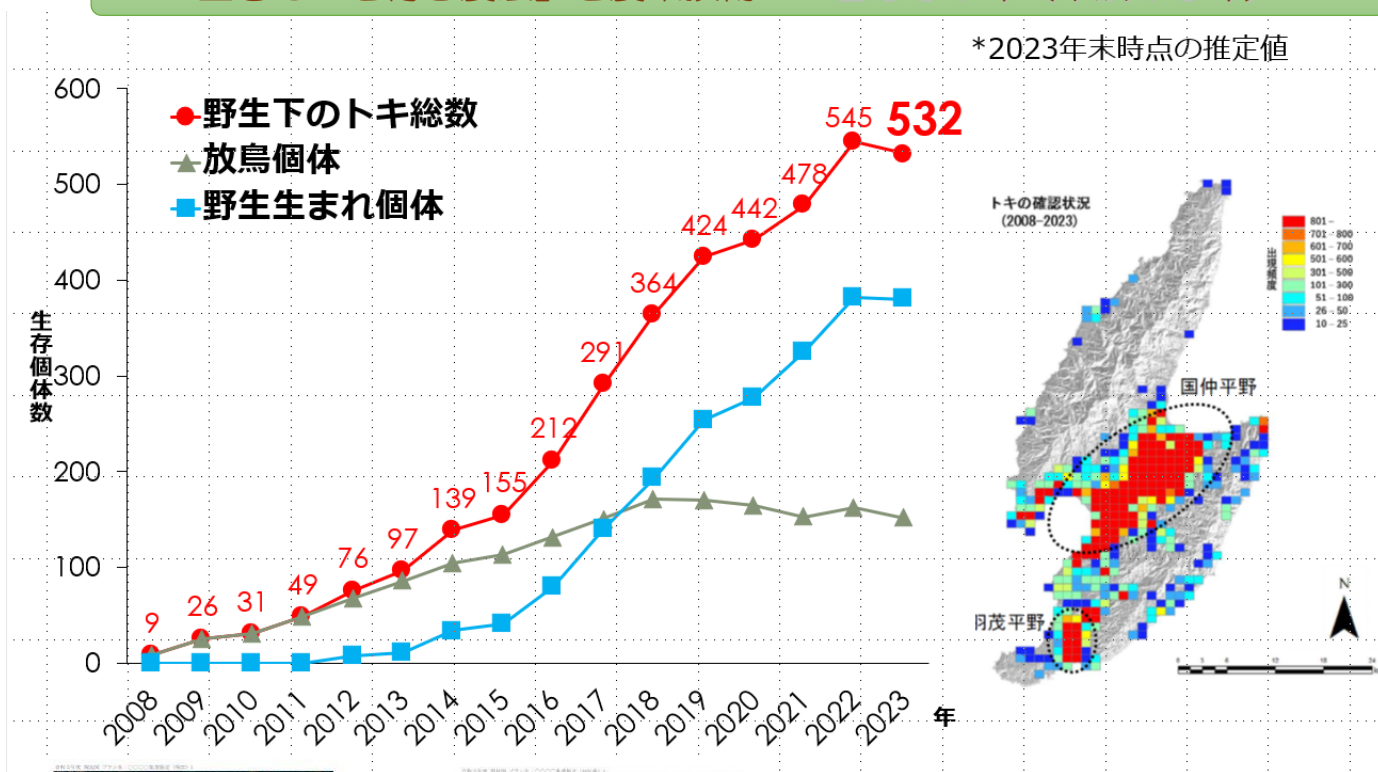


現状の課題

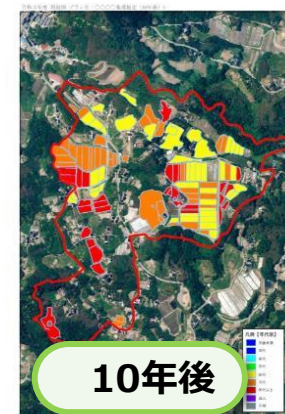
水田をトキの餌場として位置付け、生物の多様性の保全を進めてきたが、農業において担い手不足、後継者不足により、10年後は農地の耕作が困難になっている。

トキにも人にも優しい農業に興味をもち、農業に関わってもらい「活動人口」を増やしていくことが求められる。

「生きものを育む農法」を農業技術へ 2007年（平成19年）～



現状



10年後

面積 約855 km²
 (東京23区の約1.5倍)
 人口 約4.8万人
 海岸線 約288 km
 最高峰 1,172 m (金北山)



事業の目的

- 環境と経済を両立するため、食（消費）と農（生産）をどこまでつなげられるか
- 生物多様性の保全と脱炭素を両立させる取組みの実践

事業内容

■子どもたちへ「食と農と環境の教育」➡保護者、消費者へにつながる取組

生きものを育む農法で特別栽培された給食のお米を
 「農薬・化学肥料を使わない」お米にステップアップ
 水稻の栽培体験の学習を通じて、農林水産業を含めた
 生態系サービスの重要性と大切さについて学習を深める

■農業者の無農薬無化学肥料栽培へのチャレンジ支援

45ha（R2） ➡ 65ha（R6）

学校給食に必要な50t／年の新規創出

栽培の障壁となる水田内の除草を省力化する水田内除草機の導入を支援
 有機の苗作りを専門に行う農業者の育成 ➡ 作業の専門化・分業化促進

■農業DX支援

水田の消失は、生物多様性の喪失に直結

ドローンやラジコン草刈機、AIを使った栽培支援システムを導入することで、水田の耕作面積を減らさない体制づくり





得られる成果

■人口減少下における佐渡の農村社会の維持

■交流人口の増加から活動人口の創出

半農半Xモデル創出、企業研修の誘致

農業と農村コミュニティの文化、継続

■人口減少下における農業生産の維持

農業DX推進、ドローン省力化 事業

■環境と調和のとれた食料システムの確立

生物多様性の保全と脱炭素の両立

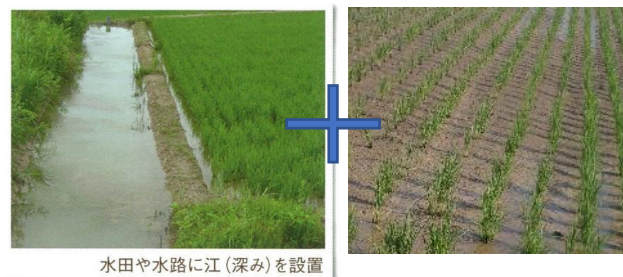
自然循環機能の維持（有機農業拡大事業）

次世代に農業をつなげるため、
子どもたちに「食と農と環境の教育学習」を通じて
学ぶ機会や考える機会の創出から、
佐渡で「働く・暮らす」移住定住へ



水田における中干の延長による脱炭素の取組みは、
水生生物にとっては生息域の消失に直結

- ➡ 生物の保全からみた脱炭素の取組へのチャレンジ
- ➡ 例えば「江（逃げ場所）」＋「中干し（脱炭素）」



水田や水路に江（深み）を設置

寄付をするメリット

■生物多様性の保全先進地で、

先進的な技術を使って持続可能な地域を模索するパートナーシップを構築

■課題解決のため人材育成、企業のノウハウを実証するフィールドとして

■消費者と生産者の両軸への様々な働きかけが可能



【連絡先】

新潟県佐渡市役所
農林水産部 農業政策課 中村・五十嵐
〒952-1292
新潟県佐渡市千種232番地
TEL：0259-63-5117
E-mail：nousei@city.sado.niigata.jp